奥能登通信

Assist

第8号
令和5年10月16日
奥能登教育事務所
指導課　石尾

国語科　「付けたい力」を明確にした授業づくりを行いましょう！

今年度も中堅研・初任研では、指導案作成や模擬授業を通して、授業力の向上を図ろうと熱心に取り組む先生方の姿が見られました。初任研の模擬授業（小学校）では国語の授業に取り組む先生方が多く、指導案の作成の仕方、単元構成・授業構成をお話する中で、「付けたい力」を明確にして授業を行うことの大切さを感じていただけたようです。今回は、国語科の「付けたい力」を明確にした授業づくりについてお届けします。今後の授業づくりにつなげてください。

学校訪問では…

学習指導要領解説の指導事項と本時でねらっている内容が合っていない授業が見られます。子どもたちのねらい達成の姿（＝付けたい力）は、学習指導要領解説に示されている指導事項が身に付くことです。
子どもたちに確実に力を付けるために、まずは学習指導要領解説を読んでみましょう！本単元・本時で何をねらうのかが見えてきます！

①指導事項の確認を！～学習指導要領解説を基に、付けたい力を明確にする～

↳指導事項が明確になると、その単元で指導すべきことが焦点化されます！

【国語科の指導事項は、以下のように設定されています！（「読むこと」編）】

説明的な文章		文学的な文章
指導事項ア	構造の内容と把握	指導事項イ
指導事項ウ	精査・解釈	指導事項エ
指導事項オ	考えの形成	指導事項オ
指導事項カ	共有	指導事項カ

※必ずしも一方向、順序性のある流れではない。

Point
- 指導事項を抜かすことなく、計画的に資質・能力を育成しましょう。（奥能登スタンダードの年間指導計画表を参考にしましょう！）
- どの指導事項も大切ですが、児童の実態も踏まえ、単元を構想する前に、取り上げる指導事項を確認しましょう。
- 単元の中の１時間１時間が、指導事項ア～カのどれに当てはまるのかを意識して授業を行いましょう。

②学習指導要領解説を詳しく見てみましょう！

（例）〇精査・解釈（文学的な文章）※第３学年及び第４学年の「読むこと」Ｃ（１）エ

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第１学年
エ　場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。	エ　登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。	ウ　目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結び付けたりして，内容を解釈すること。 エ　文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えること。

ねらい達成の姿（＝付けたい力）や、それぞれの学年で身に付ける力のつながりは、学習指導要領解説のＰＩＩ０～を読むと分かるんだね！

Point
学習指導要領解説には、指導事項の系統性が示されています。これまでにどのような学びがあり、本単元の学びがどのようにつながっていくのかを確認しましょう。

エ　登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

第１学年及び第２学年のエを受けて，イの指導事項で捉えた内容を基に，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けながら具体的に思い描き，その世界を豊かに想像することに重点を置いている。

Point

第３学年及び第４学年の「読むこと」Ｃ（Ｉ）エの指導事項における、重点が簡潔に示されています。
つまり、付けたい力は太字の指導事項の次の段落を読むと分かります！

目指す姿は分かったけれど…
何に気を付けたらいいの？？

そこで！続きを読んでみましょう。（Ｐ１１１）
以下の段落に授業を組み立てる際のポイントが示されています。

登場人物の気持ちの変化について，**場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する**とは，場面の移り変わりとともに描かれる登場人物の気持ちが，どのように変化しているのかを具体的に思い描くことである。登場人物の気持ちは，場面の移り変わりの中で揺れ動いて描かれることが多い。そのため，複数の場面の叙述を結び付けながら，気持ちの変化を見いだして想像していく必要がある。また，どの叙述とどの叙述とを結び付けるかによっても変化やそのきっかけの捉え方が異なり，多様に想像を広げて読むことができる。

登場人物の性格は，複数の場面に共通して一貫して描かれる場合と，多面的に描かれる場合とがある。いずれの場合も，**場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する**ためには，それぞれの登場人物の境遇や状況を把握し，物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を結び付けて読むことが重要である。一つの叙述だけではなく，複数の叙述を根拠にすることで，より具体的に登場人物の性格を思い描くことができる。

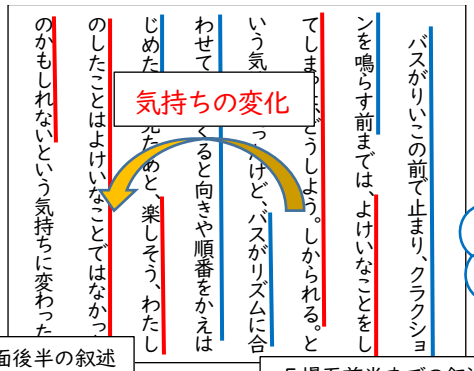
情景には，登場人物の気持ちが表されていることが多い。情景について具体的に想像する際には，場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちと併せて考えていくことが重要である。

Point

授業を進めていく上で、下線部がおさえるポイントとなります。
→　～～していく必要がある。
→　～～することが重要。
という部分を大切にしましょう！
下線部を外すことなく、授業を組み立てていくとよいです！

重要なことは、学習指導要領解説に示されているんだね！
下線部のポイントをおさえて、授業を進めていけばいいんだ！

（例①）第３学年「まいごのかぎ」光村図書　「国語３上」

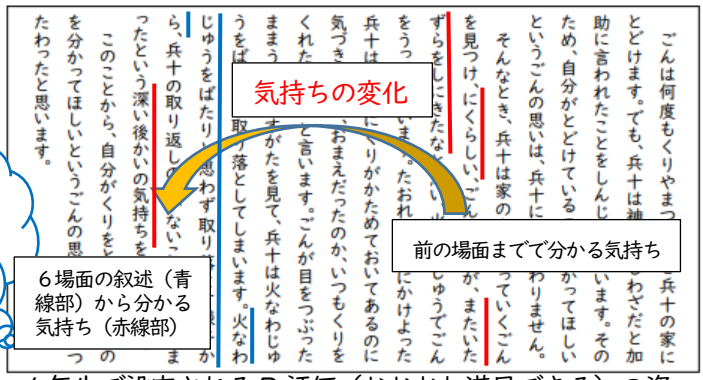


５場面後半の叙述（青線部）から分かる気持ち（赤線部）

５場面前半までの叙述（青線部）から分かる気持ち（赤線部）

二年間かけて
レベルアップ
していきましょう！

（例②）第４学年「ごんぎつね」光村図書　「国語４下」



６場面の叙述（青線部）から分かる気持ち（赤線部）

前の場面までで分かる気持ち

４年生で設定されるＢ評価（おおむね満足できる）の姿

（例③）Ｂ：兵十の気持ちが憎らしさから後悔に変わったことを場面の移り変わりと結び付けて書いている。
※兵十の気持ちの変化が捉えられていない。（→兵十は～～な気持ちだった。）だとＣとなります。

※いきなり例②のような力がつくわけではありません！２年間（第３学年及び第４学年）をかけて、このような内容が書ける力を付けていきます。４年生の姿を見据え、例えば３年生で、例①のような姿を設定することもできます。

【参考資料】・小学校学習指導要領解説　国語編
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　国語